

市立保育園職員アンケート結果

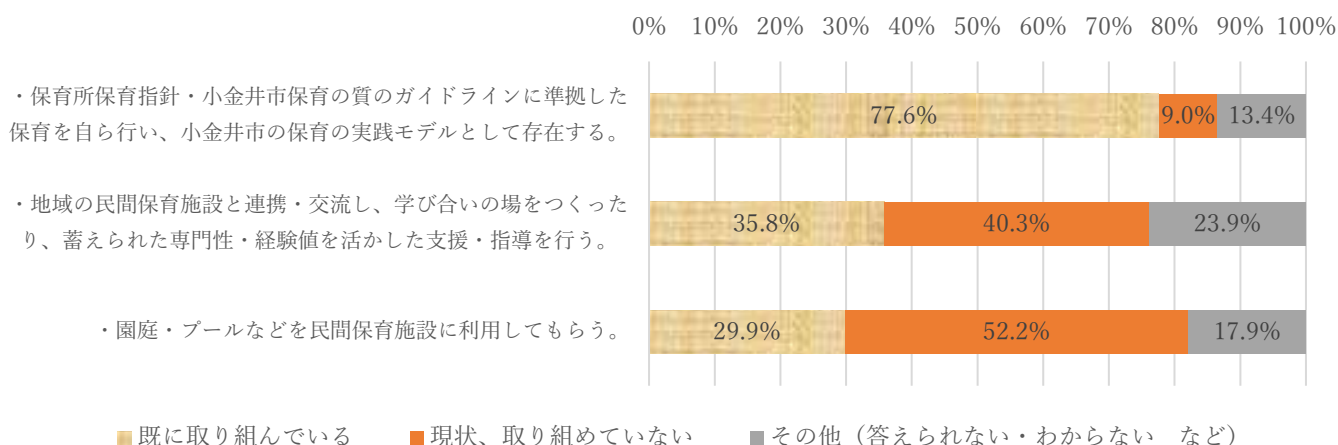
1 アンケート実施概要

- (1) 対 象 者：市立保育園 5 園の正規職員（5 園合計 8 2 人）
※ 育休等で勤務に当たっていない職員は対象から除いている
- (2) 実施期間：令和 7 年 2 月 1 7 日（月）～2 月 2 4 日（月）
- (3) 調査方法：L o g o フォームによる W E B アンケート方式（無記名）
- (4) 回 答 率：8 1 %（6 7 人／8 2 人）

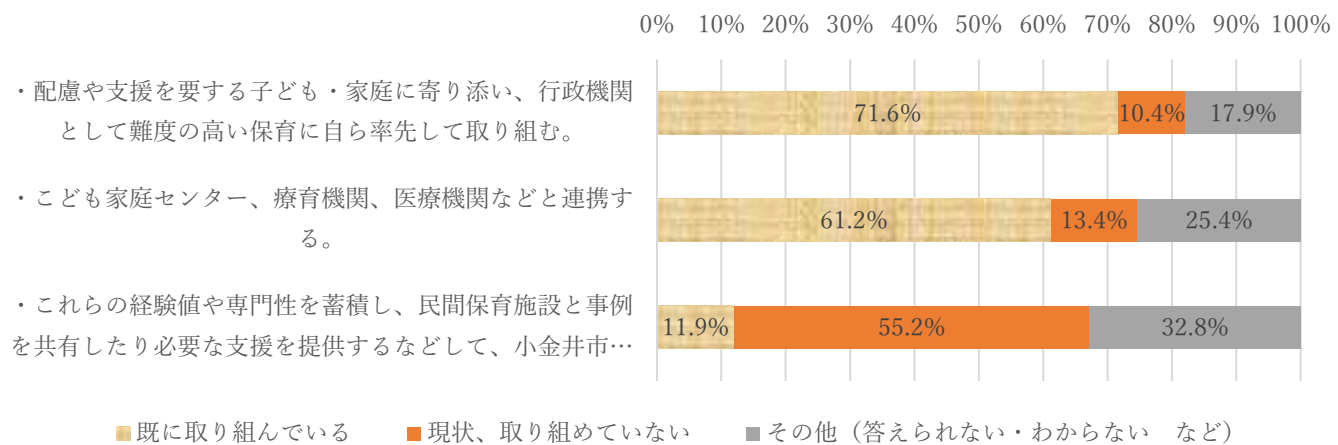
2 回答結果

■小金井市立保育園の在り方検討委員会でまとめた役割 1～4 の具体的な内容の取り組み状況等について、お答えください。

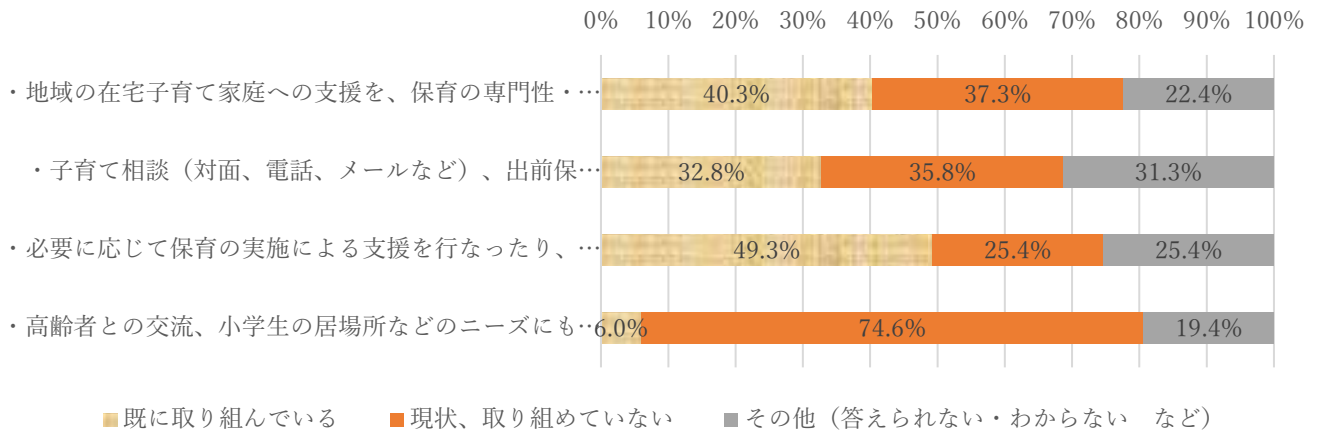
「1 地域の連携、保育の質の維持・向上を推し進める役割」



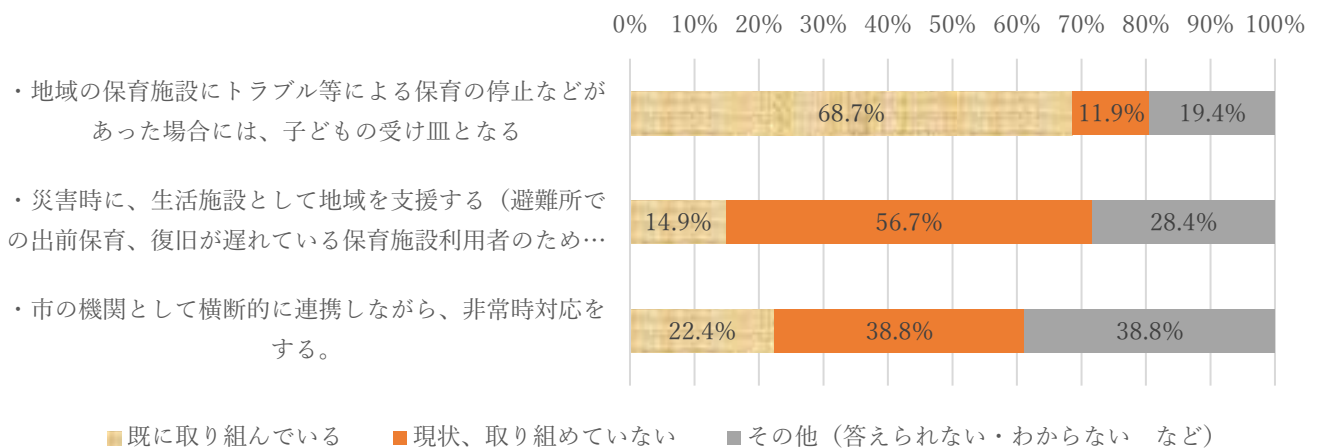
「2 難度の高い保育を率先して担う役割」



「3 公立保育園の機能を活かして在宅子育て家庭を支援する役割」



「4 緊急時に地域の子どもと保育を守る役割」



■上記で「現状取り組めていない」または「その他（答えられない、わからない など）と回答した項目について、課題（取り組むために必要なこと）をご記入ください。

◎1-2 まだ園のことに詳しくないのですでに取り組んでいるかもしれませんが、するにしても通常の保育にプラスで行うため、普段からの人員に余裕があってそのための資料造りのなども行う時間的余裕を作れないと実施は厳しい。

1-3 保育を行う時間は同じなのに、他に貸すのは難しい。現状、園内でもお庭は乳児と幼児が使う曜日が決まっていて、使えない日は散歩に出ている。プールは気温が上がりすぎて、危険で入れない日も多く、園ですら毎日入れていない現状と、人数が多いため入れても幼児3クラスのうち、2クラスしか入らないことも多い。また、貸した施設で事故があった場合、園内との子どもとの接触で事故があった場合などいろんな場合を想定してから双方で同意を得てからでないと貸せない。

1-4 巡回指導に来てもらって助かっている部分は大きいですが、その指導ができる側の研修などは特になく、また通常の保育で手いっぱいになる人手ではなかなか難しい。難度の高い子を含めての保育、行事、係りの仕事等、休憩時間も仕事をしてる人が多い中で他のことをできるほどの余裕はない。国の基準の倍以上の人員配置をしてくれればその余裕もうまれるかもしれない。

2-3 通常の保育で手いっぱいになる人手ではなかなか難しい。難度の高い子を含めての保育、行事、係りの仕事等、休憩時間も仕事をしてる人が多い中で他のことをできるほどの余裕はない。国の基準の倍以上の人員配置をしてくれればその余裕もうまれるかもしれない。

3-1. 3-2 民間園などでは子育て支援員の配置もあり、常時それを行う人がいるが現状それはない。プラスアルファの人員を確保できれば可能である。

◎人員が必要最小限のためほかのことに手が回らない状況です。

◎ふさわしい資格を有した人員の確保

◎民間園への指導というよりは、民間園と情報共有や園庭開放などによる交流によるつながりの方が、互いに取り組みやすい。

出前保育については、人員や、その子どもの健康やアレルギー等の調査など事前の準備が必要である。

◎プールについては、消毒の対応や健康管理が難しい。

外部や他機関との連携は課題であり、現状では難しく感じている。連携のシステムを作ってもらいたいと思う。

多様化している子どもが在園している中で現状の事業の他に新たな事業は難しい。保育園にしかできないことをおこなっていくことが大切だと思う。

◎1-2 情報共有の場は増えていくといいと思う。支援、指導とあるが、公立園と私立園で保育の特色や方針も様々な中での指導等は必要なのか？

-3 園庭は小規模の保育園であれば園庭開放時に受け入れが可能だが、在園児も気温でプールには入

れないことが多いので、プールの受け入れを計画的にいれていくことは難しいと思う。

-4 私立園は巡回支援指導を、必要と感じているのか？

2-3 情報共有をしていける場があるのはよいと思う。ただ、専門機関ではない公立保育園が他園に支援ができるかは疑問がある。

3-4 児童館や学童保育もあるなかで、小学生のニーズにもこたえていくのか？小学生専用の部門を作るということなのか？

4-2 .3 災害時の対応については、まだ動き等確立していない部分が多い。

◎どの間いでも共通するのは、十分な人員と環境(建物や働きやすさ)が必要

◎1-2 給食等交流をしているところもあるが、公立園も民間園もギリギリの人数の為、学びあう余裕がない。保育士全体の人的環境、給与も含めてもっと整えていかなければ難しい。

1-4 学ぶ時間が足りない。

2-1 取り組みたい気持ちはあるが、環境が整っていない。予算的にも全く足りていない。物、環境が揃っていない。難度の高い保育をするにあたり、簡単な学びだけでは全く足りない。深い知識がなければ対応しきれない。学ぶ人材と時間がもっと必要。

2-2 連携出来るところはしているが、環境が整っていない。どこまで連携できているか把握しきれない。

2-3 学びを伝えたり共有したいが、公立園も民間園も 人員が足りずその余裕がない。

3-1 環境、物的環境、人材が足りない中で難しい。

3-2 支援ニーズは多くあると思うが、それを保育園だけで担うことは不可能。様々な課との連携が必要だが、それを取りまとめる機関、人材が必要。

3-3 窓口が整っていない中での難しさを感じる。

3-4 環境がない。居場所とした際に無人で行うことは不可能。人材が圧倒的に足りない。

4-1 取り組んでいるが、受けるにも環境、人材が足りない。

4-2 バリアフリー、緊急時の衛生面等整っていない。改善、修繕が必要。

◎質の高い保育をおこなうためにまず人員確保が必要不可欠。人手不足だと、余裕がなく教え合う場も作れない。

◎対応するための人が圧倒的に不足。それより以前の問題として、現時点で保育者が不足している。

◎1-3 園庭に関しては週2回行っている。プールに関しては、30分に一回水質管理をしているのだが、それを誰が行うのか、監視は誰が行うのか、何かあった時の責任の所在は、どこにあるのか、この所の暑すぎる気候で、園児でも入ることができない中、時間の割り振りはどうするのか、使用後の掃除の時間の生み出しなど課題が多く、実際問題難しいと思う。

1-4 今は、2ヶ月に一回、OT.ST.PTの方が来て行っている、これを保育士が役割を担う為にはそれぞれの(それ以外もあるかもしれないが)専門知識が必要になってくる。専門知識を習得するには研修を数回

受けるだけでは難しく、それなりの期間と費用が必要になってくるが、今は、その保証が全くないので、現状としては難しいと思う。

2-3 個人情報に関してかなり厳しく、また、今のところそのような機会がないということもあるが、自分の園でも支援が難しいのに、民間園に支援をしたり支援体制を強化するには無理があるのではないかとと思う。

◎すでに取り組んでいることも多くあるが、通常の保育業務を行うことすらも、現状ギリギリの体制であることはまずご承知おきいただきたい。土台が不安定な中、これ以上何か新しいことを！と言われても難しい。

設問 1

・市内の民間園は、公立の職員に巡回指導や学びの場の提供などは求めているのだろうか？ニーズもないのにやることに對し、疑問が生じる。

・園庭開放は定期的に取り組んでいるが、民間園に日常的に貸し出すとなると、果たして自分の園の子たちはどこで過ごせばいいのだろうか？外に出ても公園も譲り合って使っており、行き場がなく園庭に戻る日もある。プールに関しては、暑さ対策と安全管理に日々頭を悩ませながら行っているが、これを貸し出すとなると自園の子どもたちの活動はさらに保障されなくなるとともに、万が一そこで事故が起こったり、園への移動中に何かあってからでは取り返しがつかないが、そのような場合は民間園が責任を取るのだろうか？そんなリスクを負ってまでプールを使いたいと思う園があるのか？きちんとニーズを把握して欲しい。

設問 2

保育園としての役割は、すでに果たしていると考えている。難度の高いお子さんやご家庭の支援は、保育園主導ではなく、まず行政全体で行うべきことで、保育園としてはそこからどう支援していけるか、というところになる。それでもできること、できないことが様々あるので、市としてどうしていくのか？など考えていくべき。

保育園は『保護者の就労により保育に欠ける子』が『集団保育』を受ける場なので、いろんなニーズもあるであろうが『集団保育』ができないお子さんは、保育園での受け入れは非常に困難である。そのお子さん自身にも、一緒にいるその他の子たちにも、十分な保育が行えるとは言い難い。

医ケア児の受け入れに関しても同様であるとともに、十分な医療的設備もなく、看護師もおらず、専門の職員もいない中での受け入れは命の危険と常に隣り合わせであると考えます。すでに医ケア児の受け入れをしっかりと行っている現場を見ればわかると思うが、病院に隣接していたり、適切な設備がきちんと整っていたり、予備の電源など災害時の備えなども十分されている。また、専門知識のある職員が常駐している。ハード面だけでなく、市や区全体での保護者やお子さんの受け入れ態勢がしっかりとできており、連携が取れている。そこまでやってやっと保育園でお預かりできる段階になる。受け皿を整えていくことは早急な課題だと感じているが、それは保育園の役割ではなく、小金井市の役割である。

現状の保育園職員は、配慮の必要なお子さんに対する専門的な知識がある方はほぼいないのが現状である。この分野に力を入れていきたいのであれば、専門職の採用や、専門的な知識が取得できるような研修体制を整えて行って欲しい。

設問 3

在宅の家庭の支援については、できることは少しずつやっている。ここを主導するのも保育園の役割ではない。行政全体が力を入れていくべき分野で、現状が十分ではないのなら子家センターの規模を大きくするなど、その方面で考えると良いのではないか。

高齢者や小学生との交流も考えてはいるが、昨今色々な方がおり、安全面の確保が難しかったり、単純に職員不足でそこにあたる職員がいなかったりと、課題が多い。

設問 4

災害時や緊急時の受け入れ等については、そもそも備蓄の予算が十分ではなく、園用にも物資が足りてるとは言い難い現状がある。そして職員数も十分ではないので、受け入れたい気持ちはあれど、難しいことだと思う。十分な備蓄品、それらを日頃から衛生的に置いておく場所、人手、災害に備える知識を得るための研修などが必要である。

◎2 難度の高い保育に取り組むために、多職種の人員と専門的な知識、子どもが安全に過ごすことができる施設が必要。

◎上記の内容を実現または充実するためにはとにかく人員の拡充が最優先となるが、現状では在園児のための日常保育を行うための人材すら充分ではありません。また、今後欠員がすべて埋まったところで十分な知識と経験がある人材が充分とは言えず、育成にもさらなる人員と時間を要します。

小金井市全体の保育の質の向上と充実を目指すならば、まずは現在いる知識と経験が十分な職員がこのまま小金井市の保育施設で働き続けられるよう職場環境を立て直す必要があります。段階的縮小が始まってから、多数の有能な人材が小金井市の保育現場から離れているのです。それを食い止めるためには、早急な縮小もやむを得ないと考えます。

◎▶1-2 の民間保育施設との連携・交流・学び合いの場を作る人員やノウハウ、経験値を活かした支援や指導のための人員やスキルアップの場・期間が必要

▶1-4 の巡回支援指導を実施する人材の定期的な人員の生み出しやスキルアップが必要

▶2-3 の民間との事例共有以前に、市としての方針の基盤作り、職員の経験値や専門性の蓄積を積むための人員生み出しやノウハウが必要

専門性のある職員の生み出し後に、民家保育施設と連携し合う取り組みのための人員とノウハウが必要

▶3-1 の在宅子育て家庭への支援に取り組む人員やノウハウが必要

▶3-2 の出前保育、母子保健事業のアプローチ活動、こども誰でも通園制度に取り組むための人員とノウハウが必要

▶3-3 の必要に応じた子育て支援の保育実施支援、こども家庭支援センター等他機関との連携や支援のつなぎや幅広い臨機応変な支援に取り組むための人員やノウハウが必要

▶3-4 の高齢者との交流に取り組む人員やノウハウ、小学生の居場所などのニーズに応えるための人員やノウハウが必要

▶4-2 の災害時に生活施設として地域を支援する取り組みのための人員や場所ノウハウが必要

▶4-3 の市の機関と横断的に連携し非常時に対応することに取り組むための人員や、ノウハウが必要

◎1-2 は、交流や学びの場はありますが、支援指導は出来ているかわかりません。一緒に学ぶ場や機会を増やすことで、支援や指導の代わりになるのではないかと思います。

1-3 は、園庭は利用してもらっています。プールは、利用してもらっていません。近年は暑さ指数が危険になるため外に出ることが出来ません。他の自治体では、バスの移動もあると聞いたことはありますが、プール利用での移動は難しいのではないかと思います。

1-4 は、巡回支援指導の育成のためには、時間と学びの機会が必要だと思います。

2-3 は、難度の高い保育の中には、医療ケアが必要な保育があると思いますが、保育士は医療ケアが出来ないため、医者や看護師、医療に関わる人達が必要になります。保育園職員だけでは出来ません。医者、看護師、市役所の職員、発達支援に関わる人達、リハビリの専門家、調理や栄養に関する専門家、保護者、保育士等、多方面と連携することと話し合う場も必要です。場合によっては他にも必要となる職種があるかもしれません。対象の児によってケアすることは違い、その都度必要な物をそろえなければ医療ケアがなりたちません。対象の児に必要な人材と物品が、必要となった時にすぐに手に入る環境でなければいけないと思います。支援を提供したり支援体制強化するということを実現するためには、事例だけではなく、民間と公立どちらも十分な人材と物品、医療ケアについて学ぶ機会がなければいけないと思います。今後も難度の高い保育は増えていくと思います。小金井市として医療ケア児を預かるガイドラインがあると良いです。

3-1 は、在宅子育てが出来るまでには、ある程度の知識と経験が必要だと思います。それが出来る保育士を育てることと、それを充分行える人材が必要だと思います。

3-2 は、出来ていることと出来ていないことがあります。全て行うには、3-1 と同じく十分な人材と、知識と経験をつけるため時間をかけて保育士を育てていくことだと思います。

4-2 は、災害時にはお役に立ちたいと思いますが、物品が充分ではありません。簡易トイレがなかったりします。物品が揃うことが必要です。

4-3 は、出来ると信じていますが、災害は東日本の地震しか経験していません。災害時を想定した避難訓練を他機関と合同で行うのも良いと思います。(やっつけてはいますが、回数を増やすとよいと思いました。)

◎難度の高い保育に取り組むためには、その為の研修を受けたり資格を取る必要がある。

◎1-2 限られた環境の中でできることの情報交換や保育士同士の悩み等を共有したりする場もなくなかったが、研修のような学びの場を設けるのは体制上厳しいところもある。自身のスキルアップだけでなく、園としての意識を向上させていくためにも、支援・指導に力を入れられるような体制・人員配置が必要。

1-3 一般向けに園庭開放は既に行っている。プールは監視や消毒(水質検査)の人員を立てられればできなくはないが、初めての子の特性等を分からない中で行うのは、安全面を考慮して少し厳しいのではないかと感じる。

1-4 巡回支援に限らず人材育成という面では、通常の保育業務に加え事務仕事も少なくないので、新人を育成できるような、ゆとりある人員配置をしてもらえると良い。

2-3 ノウハウを伝承していけるような、受動的な研修ではなく自ら考えて行うロールプレイングやディスカッション形式の研修を開催できるよう、またそれを実施できる保育体制が整うと良い。

3-1 在宅子育て家庭状況の把握のため（こういった支援が必要なのかニーズが分からないので）保育課との連携が必要になるが、在園していないお子さんの個人情報の共有等どうしていくか疑問もある。

3-4 コロナ以前は敬老の日に合わせて交流していた。核家族世帯が増えている中で、高齢者との交流も大切だとは考えている。放課後デイサービスのような小学生の居場所を設置するのであれば、人員とスペースの確保は必須。

◎1-3 園庭開放なら行っている。が、建物設備の老朽化により、プールも危険だと思うし、近年の暑さでは、当該園児すら難しい。

2-1 入園されれば、対応しなければならないが、療育の知識と保育は全くの別物だということを、許可する側にももう少し考えていただきたい。

1-4, 2-3, 3-1, 3-2 の出前, 3-4, 4-2, 4-3 については、場所と人手の問題があり、中には検討すら難しいものもあると思う。場所に関しては、けやき以外は明らかな老朽化が進んでおり、通常の保育ですら危険を感じながら日々保育を行っているところ。何とかならないのだろうか。大規模地震発生するようなことがあれば、無事ではないと思っている。

◎人員の確保

進め方が確立されていない

設備が全く整っていない

◎1-3 きらりの他、園庭開放で他園が遊びに来ることもあります。プールは猛暑で使える日や時間が限られていますし、猛暑の中移動してくる外部保育園の子どもと職員も大変なので現実的ではないと思います。

3-2 児童館への出張はあります。一時保育も行っていますが、受け入れ人数が少ないため、キャンセル待ちが毎日居ます。

3-4 防犯の課題があり、施設の大きさを考えても高齢者と小学生の居場所までのキャパシティはありません。

4-3 福祉避難所として指定されていますが、市がどの程度のことを保育園に期待しているのかが地域防災計画に記載されていないため、準備が難しいです。

◎2 の難度の高い保育に取り組むためには、施設設備の整備とともに、その分野の専門（保育士、看護師、栄養士、調理員）の人員をきちんと配置することが必要と考える。

◎・2-1. 3-2 など、人員不足、施設設備の大幅な改善が行なわれていくと実現も将来的にできる可能性もある。

・こども誰でも通園では、日々登園する子どもが代わってしまう可能性が見込まれ、特に乳児だと保育士の手が必要になることもあると思われる。そのため日常的に通う子の生活が厳かになってしまう可能性がある。

・1-3 では、夏季は暑さが厳しく自園でも、プールに入れない日が多いため酷暑の中を歩いて借りにく

る危険性を鑑みてもプールの貸し出しは現実的ではないと思われる。

◎1-2、1-4、2-3、3-2(出前保育)に取り組むためには現状の保育だけでめいっばいの体制では難しく、人員が必要

1-3 民間の保育施設への園庭利用は月に1~2回程度なら全クラス散歩へ出る体制をとり可能か。プールの利用は着替えの場所や暑さの観点からも難しい

3-4 高齢者施設に出向く形で行っている、小学生の居場所としては日常的に行うのであれば新たな部屋と人員が必要

2-1 現状、特別支援保育の受け入れを行っているが、プラスの人員や保育者のスキルアップが必要と感ずる

◎どの項目にも人員が必要。また施設を貸す場合は安全面においてルール決めなども必要。施設の老朽化も災害時は心配。

◎災害時、地域の方々が避難してきた時の具体的な動きを詰めていかないといけない。

◎地域の在宅子育て家庭への支援や子育て相談(対面、電話、メールなど)、出前保育、母子保健事業に参加するアウトリーチの活動は保育現場とは別に専門チームを作ることが必要。

◎多分どの項目についても言えることなのですが、今の人員や施設、建物では地域に対して地域の方々が満足できるような保育は難しいと思います。

◎1-3 園庭の開放については、民間園と連携を取れるようになって、危険のないような形なら実施可能かと思う。プールについては近年の暑さを考えたりすると屋外プールの貸し出しは難しいと感じる。

1-4 人材育成のための研修、経験が不可欠と感じる。

2-3 まずは民間園とのコミュニケーションが密に取れていることが不可欠と感じる。

3-4 小学生の居場所とするには、それなりの人手、場所、経験も必要。

◎1-3 コロナ以前やったことがあったが、その後の需要の掘り起こしや調整が必要

1-4 研修が必要

2-3 連絡会、学習会などネットワークの構築と支援を提供するための人員が必要

3-1.3 在宅子育て家庭の需要の掘り起こしと、支援を行うためのノウハウ、支援を行う複数の人員が必要

3-4 方法の検討と他市などの情報収集が必要

4-1.2.3 緊急時についてはまだ園児の避難と園内の保育についての想定に留まっているため、今後想定を地域に拡大しマニュアルを作るなど具体的に考えていく必要がある

またそのマニュアルに基づいてのシミュレーションや訓練が必要

◎様々な課題を安全に行うことを考えたり、実践することができるリーダー的な職員が各園に数名ずついます。この各園にいる数名ずついる職員は、在園している子どもたちの保育や保護者対応、職員育成で精一杯です。そのため新しい課題に取り組むのが困難なのが現状です。

新規に採用した職員は、育成が必要のため、課題実現への取り組みの即戦力になる事は難しいと思います。1園に、もっと多くのリーダー的な職員が集まることで、取り組めるが増えると思います。

・課題によっては、子どもの安全を守るため、多くの知識や訓練が必要なものもたくさんあります。課題実現をするためには、多くの人員と時間が必要だと思えます。

◎難度の高い保育をするのであれば欠員が、いる状態では無理。

子ども家庭センターや療育期間と連携するのに保育士ではなく専門的な人が必要。

公立保育園の機能を活かして在宅子育て家庭を支援する役割の中で子育て相談や出前保育をするのであれば、専門の人かつ、担任をもちながらの保育士ではやりきれない。フリーでの、その担当の専門の人が必要である。

緊急時に地域の子どもと保育を守る役割の中で災害時に生活施設としてするのであれば、今の建物で判断すると、けやき保育園だけが、対応できるかもしれない。

ほかの4園は老朽化があったり、災害時用の施設として建物の機能が足りないと思う。

◎取り組むべき課題はあると思うが、人的環境が整っていないため、取り組むことができていない。(圧倒的に人手不足)

・民間へのプール・園庭貸し出しについて。貸し出し中の際は在園児の活動が制限されることが前提であり、目の前の子どもの活動が保障されないことは、子どもの人権侵害にもなりうる。借りなければならぬ民間園は、市民プールや、設備の整った私立園でも良い。(公立園でやるべきとの認識が間違えている) また、貸し出したとして、その間の監視体制や応急処置、救急時の責任の所在も曖昧であり、公立園が率先して担うべきものではない。

・諸機関との連携は、現在もしている。現状が最大であり、この連携以上は保育園の所管ではない。もし、これ以上の連携が公立園に求められるのであれば、より専門的知識を持った担当者を設置するなど、人的補完は不可欠。

・福祉避難所としての役割を求めるのであれば、現施設のバリアフリー化やトイレ設備の改築等、ハード面の環境改善が必要。

・医療的ケア児の受け入れについて。医療的ケアの度合を明確に示す指針を作り、受け入れられる範囲をしっかりと定めるべき。医療的ケア児の集団保育が必ずしもメリットばかりではないこと、園でできる医療的ケアは限界があり、保育士は医療ケアの専門家ではないのと。看護師の在籍があるから医療ケアが十分に行えるのでなく、医療機器や設備の整っていない保育園では、限界があること。医療的ケア児を預けるリスクを保護者にも許諾してもらうこと。これは必須である。

救急対応は1人では行えない。その間の他の子どもの保育はどうなるのか。現場では保育士が不足し、1人の保育士が現場を離れると、保育所保育指針に示される配置基準にも届かないことになるが、その違法な状況を生んででも、医療的ケア児を受け入れるべきなのだろうか。もしどうしても受け入れる必要があるのだとすれば、受け入れる責任として、保育士の増員、看護師の増員は必須であり、必要な医療機

器を設置すること、また他児の活動が制限されるような環境(室内に医療機器を設置するために室内遊びの制限がかかるようなこと)が起きないように別室対応や室内を広くする(壁をぶち抜く等)のハード面の改善は必須。

◎民間園との壁をなくして地域の中の同じ子育て施設であるという関係性を構築する。巡回指導も、民間への「指導」ではなく、あくまで「連携」や「相談窓口」であることをアピールする。名称も「相談員」とか。せめて市役所内でだけでも横断的な連携ができるようにする。災害時の避難所機能など、課をまたいで

◎民間施設との関係を深めるため交流する機会が必要

◎現状の保育でも職員が足りていないため、毎日の残業が当たり前の働き方になってしまっています。人員と物資が必要です。”

◎保育の制度や内容がよくわからない

◎難易度の高い保育、医療的ケア児の受け入れには、研修等で保育のスキルをあげることも必要だが、受け入れるための安全な環境の設置は、必須だと思う。平常のみならず災害時にも機能するような準備、人員配置ができていない

◎何をやるにも人員をしっかりと確保してからでないと無理です。今年も欠員の中保育をしている園があります。「難度の高い保育」を率先して担う役割を求められるなら在園の子達も見て、プラスアルファである余力は今無いです。

◎福祉避難所と指定されている保育園には防災倉庫がない。防災倉庫がないため、今現在備えていると言えるのは在園児のための1日分の食糧だけで、いつ起こって不思議ではない大震災で、いつ来るかわからない物資を待つだけのただの施設となってしまうのではないかと考えている。
またどの保育園も老朽化が激しく、拠点の役割を担えるとは想像できない。

◎4-2 災害時の役割については、小金井市立保育園としての事業継続計画など具体的に策定されていないので、動きが見えていない。

◎福祉避難所としてはバリアフリーなどの施設環境になっていず難しさを感じる。

日中の保育体制が厳しい中で、地域との関係だなどもっとしていきべきだと思うけれども今以上のサービス拡張はすぐには難しい。

◎地域の民間保育施設への支援や指導については、まず民間保育施設の職員との信頼関係を築けていること、保育観や人間性をお互いにわかり合えていることが前提にないとならないと思います。また、民間

保育施設が抱えている課題について一緒に考えるには、民間保育施設にこちらが赴いて実感することが大切だと思います。よって、定期的にこちらが民間保育施設に行ったり、保育を一緒に行ったりすれば実現しやすいかと思います。ただ、こちらは人員不足で日々の自園の保育に追われていて、そのゆとりは全くありません。

・園庭、プールなどを民間保育施設に利用してもらうのは可能だと思います。ただ、園庭にもプールにもそれぞれ特性があり、安全面を把握したり危険を回避したりするには、その場に慣れた職員がいることが理想的だと思います。特にプールは命に直結するため、監視に自園の職員を配置することが良いと思います。ただ、こちらは人員不足で日々の自園の保育に追われていて、そのゆとりは全くありません。

・難度の高い保育については、公立保育園で既に積極的に受け入れていると思います。しかし、現状は保護者の就労を保障はできていますが、必ずしも自園が当該児にとって理想の環境とは思えない現状があります。園児によって様々なケースがあり、2月頃に入園が確定し3月に担任が決まりますが、その個別のケースに対応しきれない配置ではなかったり、職員のスキルが追いついていなかったりしています。そうすると職員は自信を失い、やる気を削ぎ、退職に繋がっていきます。当該児の保育をその子にとって理想的な内容にするためにも、スキルが高くやる気を持ち続ける職員を存続させるためにも、研修に継続的に行ける環境を整えて頂きたいです。そのためには、人員不足は以ての外であり、ゆとりのある人員配置あってこそです。日々の保育に追われて研修に行けない現状があります。

◎1-3 プールを貸すならば、監視員等の人員は民間保育施設側に用意してもらうか新たに雇用する必要がある。更衣室等の着替え場所も無いので更衣室のための建物とその土地が必要。片付け・清掃の人員も民間保育施設に用意してもらうか新たに雇用する必要がある。

2-1 配慮や支援を要する子どもが入園する場合、そのための保育士や看護師は用意されるが給食は「今いる人員で片手間に作ればよい」という対応をされているのが現状。難易度の高い保育を率先して取り組むならば、給食も専門に取り組める人員が必要。

3-4 小学生は安全面等の理由から保護者のお迎えに同行しても、園内に入れるのは玄関までとなっている。居場所として用意するならば玄関から別の建物が必要。

4-2 元々バリアフリーの建物ではない、1階トイレが和式である、洋式が2階で介助者も入れないくらい狭い等、車椅子の生活には向いていない。受け入れるならば建物の改修が必要。現状、雨の日は2階の廊下が雨漏りする等、人が寝泊まりするには厳しいと思います。

◎災害が起きた事を想定した訓練は行なっているが、地域の方を対象にしたものではないのと、実際に災害が起こっていないので、起きた時にどうするのかは課題であると思う

◎1-3 園庭開放はしているが、民間保育施設の人が来ることは少ない。(時々ある)

また、プールは、監視者の確保など、難しい。場所を提供するだけでは、プールはとても危険なので、場所だけの提供は難しい。

4 災害時、受け入れてもらえない子の保育は行うことが可能かと思うが、一般の方の受け入れは、施設がバリアフリーではなかったりして、現実的ではないかと思う。また、災害時になってないので、取り組んでいるとはいえない

3-2 地域の子育て相談などは、日頃の保育をしつつ、行う事は難しい。

◎人材確保と育成に取り組めていない。

◎医療的ケア児や配慮のお子様を預かるにあたり、園によっては老朽化や施設不備がある中では安心安全とは言い切れない気がする。

そのような環境の中で、保護者が安心して預けられる場所であると判断されるのか、「行政機関として難度の高い保育に自ら率先して取り組む。」に、値するには難しいと感じる。

民間サービスの療育と合わせて通っても保護者は、共働きで早朝保育や延長保育を利用しなければいけない場合、保護者にとっては通えない、保育士の負担は上がる、加配も保護者の了承が得ないとつけられない。その中で、保育の質を上げることが求められるのは難しい。

◎保育課だけの案件ではなく、他部署との連携が必要なケースが多い。保育園勤務者は自身の専門性をより高めて保育サービスの提供が行えるよう努力しているところだが、専門分野以外の対応を必要とするならば、より多くの専門家との連携や、研修などにより資格を得られるようにするなど、相応の対応が必要なのではないか。それによる仕事量の増加分の人員配置も必要だと思います。

◎小金井市としての役割が明確になっていない(指示、役割の提示がなされていない)事が多いので、一つ一つ確認と役割の明確化が必要である。

◎公立保育園としての災害時 BCP 計画の作成

■小金井市全体の保育の質の維持向上のために、既に公立保育園で取り組んでいる内容や、今後、取り組みたいと考えていること、役割実現に向けたアイデア、委員会がまとめた役割への意見などがありましたら、自由にご記入ください。(自由記述)

◎保育の人手不足はどこでもある話だが、それは今後も大幅な給料増額とかがない限り変わらないと思う。公立として、さまざまな役割を求められているのは時代的にも分かるが、その分、専門の人や専門の枠を確保した人員でなければその人手不足は、働く側の負担が増になるだけで、さらなる人手不足を産むだけで、どれも中途半端になってしまうかと思います。

配置基準の倍を実施した園では求人倍率が13倍というところがある。お給料も大事だがそれ以上にいい保育をしたい保育士は多い。目の前の子どもたちに最大限のいい保育を行うために必死になっている分、できない悔しさと業務の多さに挫折する人が多い仕事であるのも事実です。事業を拡大したら、きっとその中で最大限の仕事をする方は多いと思いますが、その分、限界がきてやめてしまう保育士も多くなると思います。そうすると、事業拡大したのに、どれも中途半端で、どれもできませんでした、となる可能性もあるかと思います。保育士が働きたくなくなる保育園が、保護者にとって、市民の方に1番還元できるのではないのでしょうか。保育園の役割は、幅広くしていくと内容が薄っぺらいものになっていってしまう気がします。

小金井市はあれもこれもやります！よりも、小金井市はここに力をいれてやっています！の方が多方面にアピールにもなると思います。急な閉園などならないようにまずは民間園と協力して、小金井市の保育全体の質をあげる、そこに公立保育園の役割をまずは見出してもいいのではないのでしょうか。民間園に預けている方にも公立保育園の意義が伝わるかと思います。人員がきちんと確保できる見通しを持って、さまざまな事業を少しずつ取り入れていくと現場は混乱なくいけるかと思います。今回は、働く側の意見を聞いてくださり、ありがとうございました。”

◎人員不足で、中途採用が増え、公立園に入ったばかりの職員も多いため、民間園への指導という立場は荷が重く、経験や研修などを通して、まずは一人一人の知識向上が必要。また難度の高い保育に関しても、経験や知識不足を感じる。学ぶ場所や、時間が必要。

◎公立園として民間園との協力や交流が必要だとは思いますが、そのための人員や施設の老朽化などの問題が多いなと感じています。

◎医療的ケア児は、職員の配置とともに全職員の研修をしっかりとおこない準備をしたうえで預かることが必要。

医療的ケア児や配慮児をお預かりするためには、医療的ケアの他にも生活面の配慮や物品や施設の準備、災害時の準備が必要なのでガイドラインを作成して入園前から他機関や主治医と連携をとっていく必要がある。また、入園後も継続が必要となる。”

◎保育園は保護者の就労等で保育を必要とするお子さんが入所する施設です。その中で特別な配慮を必要とするお子さんや、医療ケアが必要なお子さんが入所することもあります。療育や医療を行う専門

施設ではないなか、保育の中でなにができるのか、職員みんなで試行錯誤しながら日々の保育をしています。もちろんどの子に対してもすこやかな成長や発達のために全力で保育しますが、保育園に入所したことで、その子が受けるべき療育を受けられていないのではないかという葛藤もあります。保育園だからこそこできることもあります、保育園ではできないこともあります。専門機関との連携も含め制度が整っていくとよいなと思います。

・様々な役割を担っていくためには安定的な人手が必要です。欠員を抱えたままでは、事業の拡充も難しいということをご理解いただければと思います。

◎現状として、保育士が少ないと思われます。人材確保や、保育士を増やすためにどうしたらいいのかを市全体で考えていかなければいけないと思います。子ども、保護者の方ももちろん大切だと思いますが、まず保育士だとは思いませんか？資格を持っていても保育士にならない人が増えている中、人材確保のために賃金を上げたり、地域のためもちろんだが、もう少し保育士のことを考えて欲しい。

◎いろんなことをしたいと思っても人手が足りないのが現状。

日々の保育ですら、対応の大変な子が増えている中で休憩もまともに取れないので人材確保と保育士の現状を知ってもらいたい。

他市に比べて余裕がなさすぎる。

近年退職者が増えているのも物語っているとしか思えない。

行政として何かプラスのことをしようとしているなら、現場にもプラスがないと実現は難しい。

質の向上といいつつ、現状はどんどん悪くなっているのでこれ以上の何かを現場に求めるのはまずは環境整備からしてほしい。

◎公立保育園への期待が込められている、ということはわかりました。しかし、施設使用の安全上の責任者は誰になるのか、ハード面の改善がない、保育士の人員配置が厳しい中、実現は難しいと思う。

これだけのことをやるのは責任重大で、まかされる不安はある。

例えば、施設の利用は、ただ施設を貸すだけでなく安全第一の中で特にプールは気候や監視等の管理が難しい。誰が管理監視を行うのか。在宅子育て家庭への支援まで広げるのは現状難しい。これは保育園がやることなのか？緊急時の災害避難所としての機能は、バリアフリーでもない施設の中難しい面もある。保育の域だけでなく、福祉などほかの管轄もあるのでは。

難度の高い保育という期待を込められているのは有り難いが、保育士誰もがこれに応えられるのかといえれば不安、責任、負担が大きい。よかれと思って広げた事業でなにか怪我や事故が起きたら責任重大、大事件になる。

人員が減っている中、私たちの働き方も厳しくなっている今、手を伸ばせることが難しいこともあると思う。人員配置やハード面の改善も、少なからず行われないと厳しいと思う。

◎小金井市の為にやれることや、やりたいことはたくさんあると思います。職員としてやる気持ちも大いにあります。ただ、現状はそれらを考える時間の余裕もないほど日々忙しい(休憩時間もなく精神的体力的全てを捧げて日々働いている)。

人材が圧倒的に足りなすぎる。市の予算が足りなすぎる。

やりたくても出来ない。まずは、今後の目標よりも、現実問題、職場の改善が優先と思います。そこが整ってからでなければ、次へ進めていくことはとても難しいと感じています。

◎保育現場に来て、何ができるのか、今の保育園が、どのように努力してできることを精一杯行っているのかを見てもらい、その中でどこまで保育園が役割を担うのかを改めて考え直してほしい。公立保育園への理想が高くなりすぎているようにも思える。

◎医療的ケア児の受け入れに関して、受け入れていくことには賛成です。しかし、今の公立の預かり状況での受け入れには反対です。

保育園はただ子どもを預かるだけの場所ではないことをまず理解してほしいです。命を預かるという重い責任があることを知ってほしいです。

また保育園は感染症が流行しやすい場所です。抵抗力の弱い子供たちの集まりです。体調不良の場合、大人と違い自分の言葉で訴えられません。悪化することもあります。また周りの子どもも機械や管など、触れてはいけないものとわからない乳児クラスでの安全管理は難しいです。簡単に受け入れる今の体制は間違っていると思います。

現段階の保育園では、保育園で過ごす中で一部分の医療的ケア、例えば導尿や経管栄養など命に直結しないお子さんや手技に緊急性の必要でないお子さんをお預かりすることは可能だと思いますが、医療的ケアが主になる子どもを受け入れるのであれば環境、物品などのハード面を揃えるだけでなく、緊急時に備えて提携する緊急対応可能な医療機関との連携、全職員へのスキルアップが必要です。また、対応する看護師はどの医療的ケアにも対応できる人材でないと難しいと思います。まずは看護師と保育士の人数の確保を。各園での対応も難しいので、公立保育園全体で人材や設備を不足なく行えるよう拠点方式を希望します。

◎2の難度の高い保育について、公立園では、民間保育園では見ることが難しいと言われているお子さんを何人も保育してきました。それが公立保育園の役割の一つなのかもしれません。ただ、ここ数年、求められる事が多くなってきていると感じています。

私たち保育士は、どの子どもも安心安全にそして、健やかに成長していく為には何が必要で、どうしたらいいかを考えながら保育をしています。”どの子ども”の中にはもちろん医療的ケアの必要なお子さん、支援の必要なお子さんもいます。その子ども達もクラスの一員として、他のお子さんと一緒に過ごす為にはどういう関わり方が大切なのか、どういう事が必要なのか、その為にはどういう支援が必要なのか、できる事と難しい事の見極めなど、それが一人ひとり違うので、専門的な知識も必要になっていると感じています。保育士の力量と言われればそれまでかもしれませんが保育園は療育の場ではないので、できることには限界があります。保育園は、様々な大人が関わって、生活面や社会性を学ぶ場所です。

その中には、いろいろな子どもたちがいて、子どもたちは、それが当たり前になってきています。その当たり前を当たり前にする為には専門的な知識を持った職員や環境が必要になってきます。「受け入れて」というのは簡単ですが、受け入れて保育をするのは現場です。現場の職員が安心して受け入れられるよう、まずは、人、環境、設備を考えていただけたらと思います。

3-4 の高齢者との交流は、近くの高齢者施設と連携すればできると思うのですが、小学生の居場所となると、場所の確保と人の確保が必要になってくると思います。

4 の災害時の地域支援や市の施設としての横断的な連携は、話してはいるものの実際そうになったら本当に機能するのか不安があるので、訓練できるといいと思う。

◎行政の役割、保育園の役割、など混同しているように感じる。保育園はあくまで『保育をする場所』なので、そこはまず念頭においていただきたい。

保育園で医ケア児をはじめとして色々なお子さんの保育をすべきだ！という気持ちもわからなくはないが、受け入れるには様々な準備や設備が必要不可欠。それが小金井市の設備にはない。十分な準備期間や人手さえもない。

理想や目標はあって然るべきだが、現実をきちんと受け止めた上で、どうしたら実現可能か？を冷静に考えていていただきたい。

昨今の保育士不足の中、我が市ももちろん同様に人手不足。さらにベテランの方々が退職されていき、どうやって保育の質を維持していくか？と日々頭を悩ませている。新入職員や任期付き職員も多く、今までの保育の『当たり前』が当たり前ではなくなってきている中、後進育成に大きく課題を感じている。それぞれの園で同じように課題を感じ、色々な問題を抱えているが、みんなで協力して日々頑張ってきている。そこはご承知おきいただけると幸いです。

長くなり申し訳ありませんでしたが、現場の声を拾うこのような機会を作っていただき、ありがとうございました。

◎ 在り方検討委員会の中で、公立保育園に多くの期待を抱いていただいている事が嬉しく思い、実現していけるよう誇りを持って取り組んでいきたいと率直に思いました。

今までも、できる範囲で園庭開放や児童館の訪問、保育施設の閉鎖に伴う受け入れ（一時保育）等行ってきました。

今まで仕事を続けていく中で「子どもを大切に育てていくには人、時間、費用等」がかなり要する事を実感しています。更に新しい事業を始めていきたい、基幹として担っていききたい気持ちはありますが、上記の部分を満たして、見切り発車ではなく、人と時間をかけて土台をしっかり作ってからスタートする必要性はあるかと感じています。

1 の地域との連携の部分で民間園との交流、巡回支援指導がありました。民間園が公立園にそのような機能も求めているのかどうか調査していただきたいです。それぞれの特色を持って行っている中で、同じ一保育士からの助言は蛇足にならないか心配です。それならば、今までも民間園にも研修に声をかけたように研修等で一緒に学ぶ機会を増やしていければ良いのではないかと思います。

プールの利用は大きいプールを共有するのは素敵なことと思いますが、実際のところ酷暑により在園児もほとんどプールに入れていない現状があります。

監視態勢も毎年研修をして行っていますが、数回のプールの為に注力するよりも、例えばプールは室内運動スペースに建て直し、年間通して運動を保障する場にして民間園も利用できる方が需要があるのではないかと思います。

2 の難度の高い保育に関しては率先して行う事は必要かと思いますが、大事に保育している子に万が一

命に関わる事が保育中に起きる事は絶対に避けたいです。保育園で受け入れられる子なのか、まずは生命を第一に考えていくべきなのか等の基準を定めたマニュアル等の土台作りをしっかりと行ってから行いたいです。

また、色々な子が一緒に育っていく環境が大切なので、配慮が必要な子ばかり公立園で受け入れるのはバランスが心配です。

同じマニュアルを通して民間園にも同様に受け入れてもらわないとキャパオーバーになると思います。

3 子育て家庭を支援に関しては在園している子どもをしっかりと預かる事が主な役割でそれを逸脱しない範囲で行っていく事はできるかと思いますが、今の人員では正直あまり今以上にできないのではないかと思います。

4 緊急時については、築年数が大分経った施設では安全に預かる事は不可能かと思いますが。利用している子どもたちも古さゆえに怪我をする事もある事から建て直しをしてから考える方が良いかと思いますが。お湯が出るところもほぼなく、冷たい水で手を洗い、老朽化した寒いトイレを使用している現状です。公立園を基幹として進めていくなれば、働く環境に関してもモデルになりたいという気持ちもあります。年齢層が揃っていたり、有休や育休をとりやすかったりする事は素敵ですが、小さい子どもや介護を必要とする親を抱えていても部分休業が取れない現状もあります。その辺りの整備をしても、しっかり働ける環境を整えて、キャリアのある保育士が続けられるようにしていただきたいです。

◎小金井市立保育園の役割（案）が実現できたら、子育てがとてもしやすい街になると考える。いつかその役割がしっかりと果たせるように、小金井市の保育の質を守るために、人材を含む環境の充実に最優先に取り組んでいきたい。

◎市立保育園の役割を実施するためには、現状としてそれに取り組むための人員や、ノウハウがそもそも足りていない。具体的に人員を生み出すための人員配置をきちんと確保していけるような対策をしていく必要がある。

人員の確保を理想論でなく現実的に進め、事業の取り組みが実施できるようにしていくためにもノウハウが取得できる機会が必要となる。

◎医療的ケア児の保育を行うにあたり、看護師が確保できないと命に関わるので絶対に必要だが、現状、小金井市は必要な保育時間に合わせた柔軟な雇用ができていない（会計年度任用職員月給制）。雇用を柔軟に行うために条例改正が必要なら、しないと預かることができない。また、全園で展開すると看護師の確保が難しいので、公立園 1 園が拠点になると、さらに医療的ケア児を柔軟に受け入れることができると思う。設備や人的環境含め対策が必要。公立園はモデルケースを作り、私立園と協力して行うべき。

◎行政が担う役割とその行政が担う役割の中で公立保育園にどのような機能が担えるのか？であって、まずは行政の役割や立ち位置を明確にしていく必要があるのでは無いか？とそもそも考えます。

役割（案）で前段に示されている内容は、「保健、医療、福祉、子育て等の関連分野が有機的に連携することが重要、中核は子ども家庭センターが位置する」と示されています。小金井市として広い意味で子どもを中心に多くの課題があり、子どもを取り巻く課題に行政としてどのように解決していくのか、その

中で公立保育園の役割は何か…という考え方で良いのでしょうか？保育課だけでなくこどもを取り巻く課題に関して様々な部署や関係機関が連携し課題解決に取り組んでいく時に、公立園が担うべき役割が表に示された4つという理解？

前段の文章で、保健、医療、福祉、子育て等の関連分野が有機的に連携となっているので、子ども家庭センターだけでなく、市の中でどの課との連携をしていくのが表からは読み取れず、公立保育園がすべての課題に関して主体的に役割を担っていくというようにも読み取れるので、そこに不安を感じます。すくなくとも、公立保育園の役割として位置づけられた事柄がきちんと機能するような体制作り、公立保育園の人的配置や設備の面だけでなく、市の他の部署とも柔軟に連携が取れるようなシステム作りが必須であると考えます。役割として整理されている4つの項目については重要な課題（役割）として理解は出来ませんが、4つの役割の中に含まれる程度がどの程度の物が求められているのかも不安です。

①について

・委員会の中ではスタンダードなどの表現が使われていましたが、「小金井市の保育の実践モデルとして存在する」という表現は良いかなと感じました。1つの実践例であって同一ではないということが良いかと。

・小金井市の保育園として「学び合う場をつくる」と言うことは重要であると考えます。公立園も民間園も保育の現場では課題は大きく変わらないと思います。課題や学びのニーズを調査し、定期的な研修体制が構築できるような取り組みなど出来ると良いと思います。

・「蓄えられた専門性、経験値を活かした支援・指導」これはあえて公立保育園としての役割の中に入れる必要があるのか？公立保育園も、民間保育園も保育所保育指針に準拠した保育を実践しているとするならば、学ぶ立場は同じなのではないかと。支援・指導をするのであれば、「蓄えられた専門性、経験値」だけではなく、何かしらの資格や認定などであると良いかも。（蓄えられた専門性と経験値は民間園でも従来から持ち得ている物があると思います）何よりも、保育の課題について一緒に学び合っていく方が大事かと。

②について

・「難度の高い保育」の意味合いがすごく広範囲にわたる気がしています。上限がないというか…

他の自治体だと「比較的重度の」などの表現が使われている所もあるようですが…難度の高い保育の意味する範囲（障がいの程度や医ケアの内容）が明確でないので不安があります。

・現状の小金井市の公立保育園の特別支援保育は、会計年度任用職員での対応になっていますが、近年の支援が必要なお子さんの症状は様々で、職員のスキルアップや専門の職員からのアドバイスも必須となっています。今後難度の高い保育を率先して担うのであれば、専門職の配置や環境の整備も必要になると考えます。

・特に医ケア児についてはガイドラインも整備されていないので、早急なガイドラインの整備や、実際の受け入れ体制について検討していく必要があると思います。

・医ケア児等の難度の高い保育は、保育環境の整備、備品の購入、専門の職員の配置など、現状の保育環境、保育スタッフでは受け入れ体制が万全であるとはいえません。公立園がどの園でも幅広く難度の高い保育を担うのではなく、特定の園で環境を整備し、専門（看護師、保育士だけでなく、PT、OT、ST、心理など）のスタッフを配置し、医療や福祉との密接な連携を構築して行くことで専門的な知識や保育のノウハウが蓄積され、円滑に継続的に難度の高い保育が担って行けるのではないかと思います。

③について

・保育園の通常の機能の他に在宅支援や、相談事業などの役割をになうのであれば、在園クラスの担任職員とは別に地域の子育て支援専任の職員が配置されなければなかなか難しい。

現状、園庭開放や育児支援事業にも専任の職員を配置する事が出来ていません。あえて在宅家庭にも手を伸ばして行くときに、安定的にその役割を担っていく人員が必要となります。保育士だけでなく、栄養士、保健師など1つのチームとして地域の子育て支援を担う部門を保育園の中につくらないと厳しい。例えば、通常のお子さんが登園する通常保育部門と育児支援部門など、サービスというか業務の内容を切り話さないといけないのでは？そして、育児支援部門は子ども家庭センターとの連携を密にしていくことでセンターが持っているノウハウなども学ぶことが出来ると思います。

いずれにしても、現在公立保育園で行っているような単発の育児支援ではなく、継続的に利用できる場所の確保（育児支援室）、対応する職員（保育士、栄養士、保健師、給食を提供する場合は調理員など）が必須。

④について

・災害時に避難所での出前保育、臨時保育、支援物資供給の拠点の役割となっていますが、公立園は災害の状況によっては二次避難所として避難所を開設し避難所の運営を平行して行う場合があるのか？

災害時に公立園だけで出前保育や臨時保育を行うことが現実的なのか疑問があります。公立園の役割として「災害時に公立保育園と民間保育施設間で協力・連携出来る体制の構築」と書かれている自治体もあるので、災害時に公立園が「動く（行く）」考え方以外にも、「そなえる」の意味では、災害時に連携出来る民間園との関係作り（例えば地域に必要な保育要員を融通しあうなど）をしていくことが大事な気がします…

公立園が行政機関として民間園以上に担わなければならないことはあるのかもしれませんが、市内の8割の子どもたちが通う民間園にも多くの職員がいて、日々創意工夫をしながら保育を実践していて多くの経験と蓄積してきたノウハウを持っている。その民間園の職員と協力していくことが大事なような気がします。

◎2・医療的ケア児をお預かりするのであれば人員配置はもちろんのこと、それなりの施設環境を整えることが重要だと思う。緊急災害時（停電等）でも必要な（医療的危機が稼働できるような）電源の確保は必須。

3・在宅子育て家庭への支援は、子どもだけでなく家庭環境等総括して見るのであれば、保育士ではなく社会福祉士が役割を担うのが妥当ではないかと思う。

・目の前の子どもたちを丁寧に見るためには、精神的にも体制的にもゆとりを持つことで、質の高い保育は守られると感じる。余力があればできることは多い。記録などの事務等を簡素化できると、一人ひとりの子どもに対して丁寧に関われる時間も保障できる。

◎上記にも記載したが、市内公立園の老朽化は、かなりの問題だと思う。それを解決されないまま、新しいことはおろか、日々の保育も危険が多いと思う。

人手不足についても深刻で、家庭との両立が叶わず、年々退職者が出てしまっていることで、若い世代への引き継ぎもままならない状況がある。役職についても、両立を考えると、二の足を踏むのは間違いないし、この先を考えると、長く働き続けることも、難しいと考えてしまう。募集をかけても応募が来ない。それでもやらなければならないことはあるし、さらに増えてくる。

全てのことが、保育園を中心に動くのではないとも考えるので、他部署との仕事の振り分けもきちんと考えた上で、公立園として何ができるのか。それを検討していく必要があると考える。その中で施設について、人員についても、きちんと検討していく必要があると思う。

決して保育園に丸投げになるようなことのない、無理のない、検討すれば実現可能だと思える形を望んでいる。

◎施設が老朽化しすぎていて、現状通っている子さえ、満身に過ごせているか疑問に思う。実際不具合も起きているし、災害が起きたらかなり被害が出るのではないかと。むしろ登園している子を守るための援助が必要になると思う。色々な面で登園している子以外に手を回す余裕はないように思う。

◎・難度の高い保育は既に行っていますが、環境として適切かどうかは疑問があります。家庭に問題を抱える子ども、医療的ケア児（発達に問題が少ない）は保育園が受けたいと思いますが、常に療育が必要だったり専門的な食事を必要としたりと、集団保育よりも個別的ケアが必要な子どもにはそのようなケアをしてあげたいが出来ないのが実情です。きらりが預かりを延長したり、病院が付属の保育園を併設するなどすることで、より一人一人のニーズにあった保育ができるのではないのでしょうか。すべての子どもが保育園で保育できるようにするのならば、医師、調理員、OT、PT、ST、心理士などいろいろな職種がさらに必要です。また、このような多様性を持った子どもや家庭を支えるのは保育課のみではなく、自立生活支援課、子ども家庭センターと市を挙げて熟考することが大切であり、すべてを保育園に丸投げすることのないような議論を在り方検討会で実施していただきたいです。

1-2 既に保健分野では「ほけん根っとうわーく」、給食分野では「おいしい給食研究会」が五園主催で民間園と実施されており、学び合いの場になっています。個人情報に配慮した上で事例の共有も行っていません。

4-2 緊急保育を一時保育で受け入れた経験があります。

また、福祉避難所マニュアルを作成中であり、応急保育のみではなく、配慮が必要な市民をどのように受け入れるかの検討も開始しています。地域安全課や地域福祉課との情報共有や検討を保育課にも是非検討していただきたいです。

◎現状の保育体制よりもプラスして人員が必要となるが、小金井の保育の実践モデルとして実際の保育を観に来てもらい、学び合う場を作り小金井の保育の全体の質の向上へとつながってけるとよい

◎地域の子育て世代の相談窓口（園庭開放）、コロナ禍前は老人ホームでお年寄りとの交流もあったので、そのような取り組みの充実。私立保育園の職員と一緒に勉強会。ただ、どれも公立保育園の職員欠員がある中では厳しい。いま通っている子ども達の安心安全な保育が守られてこそだと感じる。

◎民間園の巡回支援指導については、まず、民間園にどんなことに困っているのか、利用するならどんな形が良いのか、根本的に必要としない、の意見も含めたアンケートをとってからスタートした方が良いと思う。

◎公立の担っていくべき役割は感じていますが、現状、体制が整わなかったり職員の休暇も十分に取得できていない中では正直保育士の負担だけが大きくなって、仕事を続けていけないのではと懸念されます。

必要な人員が揃って、日々の保育をまずは第一優先にして、その上で、必要な研修を受けてスキルを身につけ、民間園との連携を取るところからスタートしていくことが大切かと考えます。

園庭や施設は古いですが、のびのびと遊べる環境であることは間違い無いので、遊び場が減ってきている中、公立園の施設を有効に利用してもらえるようになるといいなと思います。

◎・高齢者や生徒、学生との交流により地域での子育てや高齢者の見守りにつなげていく

- ・民間保育園との交流保育
- ・小学校や学童保育所との連携
- ・民間保育園と合同の避難訓練

◎・委員会でまとめてくださった案の中には、公立園だけでなく、民間園でも担うこともあったり、保育園ではなく、他の機関の役割も含まれているように感じました。

・支援が必要な子どもや保護者に関わる機関が、保育園に入ったから大丈夫、と言うことではなく、それぞれの機関が継続して連携できるように子ども家庭センターが中心になって仕組みを作ってくれれば、役割実現への可能性が広がるものが増えると思います。

◎公立園を残すのであれば建て替えも必要になるので、例えば子ども家庭センターとの併設とか、医ケアや重度障害児対応施設との併設とか、学童や放課後デイとの併設とか、課題（役割）となる施設とコラボすると機能が果たせるのではないだろうか。保育園だけの建て替えより、いろんな分野が入ることで、補助金や外部からの支援が得られないだろうか。また、職員の数を増やさずに役割を遂行するには、保育園の規模を小さくして、他団体の施設や人員と連携・交流しながらやっていくのがいいのではないか。

◎多様な医療的ケア児の対応

まずは職員の理解を深める為、研修をコンスタントに行う。保育園の必要性は感じるが、どの程度の医療的ケア児を受け入れるかは明確にする必要がある。子どもの命を預かる場なので、安易に何でも受け入れは安全面に不安がある。土台をしっかりしていきたい

◎孤独にならない子育て、相談できる場所

子育てで孤独になるとうつ病や精神が不安定になりがち。誰か（特に同じ境遇の人やアドバイスできる人）と話ができると、負担も軽くなるのではと感じる。1歳半健診、3歳児健診のみならず、楽しいイベントの中で交流できる場があるといい

◎災害の強化

いつ災害が起きてもおかしくない日本列島。最近はより細かい設定で避難訓練を行っているが、継続して取り組んでいきたい。あらゆる想定を考慮しておく、万が一の時に慌てずに対応できる。ひいては、それが子どもを守る、地域を守ることに繋がると感じる。

◎不適切保育、自己肯定感をあげる

子どもの自己肯定感を上げるには、まず職員の意識を向上する必要がある。日々の生活の中で、様々な感情が出てくる。それも人間なので、当たり前。しかし、仕事中は大人の余裕のなさ、感情の揺れが子どもに影響することもある。職員のメンタルケア、メンタル強化など行っていけるといい。ケアを強化していくと、つい感情的になって、不適切な行動や言葉かけも減っていくのではないかと思う。

◎役割や内容がよくわからないのでわかっている人に聞きたいと思います。

◎保育園には、保育士だけではなくその他専門職の職員が勤務しているが、保育士だけの質の向上だけではなく、専門職も含めた質の向上が必要だと思う。

民間園と共有できる研修の機会をつくり小金井市の保育園全体のスキルアップにつなげるべき

◎ 災害対策については、シミュレーションや打合せ等を定期的におこなっている。安全確保の確実性の向上、且つ地域全体の支援等は継続的にしていく必要があると考えている。

現状の公立園の所在地はそれぞれ市全体の中でバランスよく配置されているため、災害時の二次避難所としての役割は、公立園の在り方として、ひいては市の責任として果たし続けられることが望ましいと思う。

◎1-3の園庭は園庭開放で地域の方に利用してもらっていますが、プールを民間保育園に利用してもらう場合監視など同じ条件でやってもらわないと事故やケガがあった場合の責任問題で困ります。公立の子たちが今でも毎日入っていないのに（暑さ指数、監視体制等で）より在園児の子たちの入れる日が減ってしまうのではと懸念します。

◎保育の基本となるのは一時保育だと聞いたことがある。在園児でなくてもその時子どもを預かって欲しい様々な事情を抱えた市民の方の助けとなるからであると認識しているが、現在公立保育園では2園しか一時保育は行えていない。施設設備がない、人員がない、財源がないなどの理由である。広く市全体の裾野まで公立保育園の実力を発揮できるように一時保育の充実を実現してほしいと思う。

◎・市立保育園の役割に目を通し、全体的に保育園職員の人員が十分に確保され、且つ障害児や医ケア児などを受け入れるための専門的知識を既に身につけている前提での案だと感じました。

現状では保育園は確実に人員不足であり、常に疲弊した状態で働いてる中で目の前の子どもたちの保育を大切にしていける事が第一と考えているため、かなり難しい案だと感じました。中には保育園だけでは

解決できない事案もあり、“市立保育園だから行って当然のこと”と案を出されるのは、働いている職員としては苦しく感じました。

・プールの貸し出しについて、年々気温が上昇していく中で該当園でさえ入水の時間が限られ、どう回していくか考えているため民間園への貸し出しは現実的ではないと思いました。水死事故も起こり得るプールの貸し出しでは監視等は借りる園だけで完結するのか？貸し出す園から人員が必要なのか？必要な場合人員不足な中人は出せないのではないか等色々な問題が浮上すると思います。

・障害児や医ケア児の支援を率先して受け入れるについて、これは保育園だけで完結する内容ではないため難しいと思いました。配置する職員、看護師等のプラスの人員はどこから生まれるのか、古い建物はそのような子どもたちが必要とするバリアフリーを取り入れた施設は少ないと思います。環境や施設の問題も出てくると思います。

◎理想の実現のためには財源が必要で、そのことについて、委員の方々はどう思っているのか。

◎・職員がやらなければならないことをただ増やすだけでは、ただ重圧が増え、責任感に押しつぶされそうになります。民間保育施設の職員の方に対して偉そうなことをしてしまっただけでは逆効果だと思います。

・難度の高い保育を担うには、経験とスキルと継続的な学びが必要で、それには自園の人員配置や職員の心身にゆとりがあることが必須です。学ばせてください。今のままでは、当該児にとって最もいい環境を提供できているとは到底思えず、申し訳なさや虚しさを感じています。ただお預かりするだけが私たちの仕事ではありません。当該児の成長を見据えて保育に日々あたり、子どもの成長を促し、保護者の不安を軽減し、成長を共に喜び合いたいのです。

◎民間保育施設は新しくてきれいな所が多いため、公立の古さと汚さを見たら実際に利用したいとは思わないのではないのでしょうか。民間のイメージで保育園の利用を考えているのなら難しいと思います。

◎公立の在り方検討委員会なので仕方がないと思うが、全てを公立保育園だからと言われても現実問題として厳しいと思う。私立だから質が低い訳ではないし、公立であっても人材が始めから何でもできる新人ではないから。公立の強みは市との連携がスムーズである事だと思うので、他の課との連携が必要な業務は強みだと感じるがその他は私立でも変わらないように感じる。災害時はやはり公務員である公立が先手を切って動くと思うので、そこも強みかな…

公立の強みを活かした役割分担ができるのが理想だと思う。

◎難易度の高い保育の実施と民間保育施設との連携。民間から学ぶ事も多いはずなので、職員同士の交流もしていきたい。

◎素朴な疑問なのですが、委員会に参加されている方で保護者の立場ではない方は、実際に保育園に来て保育の様子や事務など、実際の現場を見て検討されているのでしょうか？

また、資金面ではどこから資金を得る予定で話されていますか？

◎様々な役割を果たすためには、適切な人員、施設等のハード面ソフト面が絶対的に必要であります。確実にセットで考えなくてはならないことです。

◎看護師・保健師による「ほけん根っとうワーク」、栄養士による「おいしい給食研究会」などのように、民間園との情報共有を、園長や保育士間でも連携できたらいいと思う。